

日本物理学会 2023 年年次大会

領域 10 インフォーマルミーティング (IM) 議事録

日時：2023 年 9 月 18 日 (月) 17:30-18:40

場所：東北大学川内キャンパス A102 会場 (参加人数：15 名 + α)

進行：領域 10 代表 是枝聡肇 (立命館大)

書記：領域 10 連絡委員 藤原孝将 (QST)、誘電体分科運営委員 押目典宏 (QST)

1. 領域委員会 (2023 年 5 月 29 日、オンライン) 報告

1.1. 年次大会での企画公演、シンポジウム

領域 10 主催が 2 件、共催が 5 件あった。

1.2. シンポジウムの英語対応について

領域委員長より、オンライン方式が浸透したので 1 件でも英語講演を含むシンポジウムの全講演を英語化出来ないか、意見募集があった。

誘電体分科 IM では「何を目的に、誰のために英語化するか等の判断材料が不足している。まずはシンポジウム英語化を試行した前例について情報提供を要望したい」という意見があったと藤原委員より報告があった。

是枝領域代表からは「海外の人の為だとしてもどれくらいの人に参加するのか、ニーズが読めないでコストばかりかかるのでは」とコメントがあった。

1.3. オンラインでのポスター発表について

ポスターセッションはオンライン開催では、Zoom はブレイクアウトルームが使いにくい、Remo 等有料サービスの導入は参加費値上げが必須、等の問題がある。

領域 10 からは以下の意見があった。

- ・ Remo 等を導入する場合費用はいくらかかるのか、500 円や 1000 円程度の値上げなら良いかもしれないが、5000 円と言われると躊躇する
- ・ ブレイクアウトを使うかどうかで値段が変わるなら、ブレイクアウトルームに加えて Remo 等も契約するのはちょっと…… (ただし、ブレイクアウトルームは口頭発表でも使用されるためこちらを解約するのは難しい様子)
- ・ ショートプレゼンの後、ポスターセッションに移動する等あってもいい

誘電体分科 IM では「Remo は仮想空間のため発表者等がどこにいるかわかる良さがある、一方でそのために参加費値上げというのも首肯しづらい、コアタイムがあると聴講側はありがたい、そもそも領域ごとに事情が異なり領域 10 ならば全員口頭発表が可能では」等の意見があったと藤原委員から報告があった。

是枝領域代表からは「領域 10 ならば件数がそもそも少ないので全員口頭でも良いのでは。是枝の指導学生であればオンラインだとポスターを見てくれる人がほとんどいないので口

頭発表にするか辞めるかのどちらかを薦める」とコメントがあった。

1.4. プログラム編成のやり方に関して

領域 11 より、プログラム編集の効率化のために、領域委員間のやりとりを円滑化しリアルタイムかつ相互にプログラム編集可能とするツールの導入希望があった。ただし現状の参加費では導入可能サービスは限られている。領域 10 内でプログラム編集のコミュニケーションに導入している Slack は、領域間連絡での利用が困難であり、リアルタイム編集不可、3 ヶ月でやりとりが消去される問題がある。

是枝領域代表からは「予算のこともあり、ここで議論しても結論は出にくいいため、上層部に意見をあげてみる。Slack だと情報が 3 ヶ月で消えてしまい困るため、次回に情報が残るようにしたい」とコメントがあった。

誘電体分科 IM では「オフラインでの作業ならその場でのやりとりで話がつくことが多かった、部屋取りについてはかつて参加者数の統計等を参考に決める手法があった」等、従来手法を見直す意見があったと藤原委員から報告があった。

1.5. 「計算物理」に関する新領域の設置

「計算物理」に関する新領域の設置について意見募集があった。

領域 10 では以下のような意見があった。

- ・ 本年会で開催された説明会の参加者の間でも賛否があり、あまりに拙速
- ・ プログラム編集で領域を兼ねた発表ができるのではと意見もあったが Feasible でないのでは
- ・ ボトムアップ型で進めていく話なのにそうならない
- ・ メンバーを見ても、既存の領域で満足できないのかわからない
- ・ 会期が重なるとどちらかのセッションに行かざるを得ないという弊害がある
- ・ 物理学会で作る意義はいまいちわからない、外に学会を作るという手もあるのでは
- ・ 色々トライした方がいいとは思いますが、領域から人を吸い上げるようなことをされては困る
- ・ 実験とのコラボが重要であり具体的なイメージがないのに計算物理ができたから行くということではない
- ・ 新領域を作る意義を判断するに値する情報が欠けており、丁寧な説明がほしい
- ・ 来年の北大での年会では合同セッションをやることになっているが、そうした資料は領域代表しかまだ見られていない。このスケジュールでは難しいのでは
- ・ 意義・大義、テクニカルなことも含め示していただきたい
- ・ 例えば 3 月は主発表に制限がかかる。そういうことまで考慮しているのか→新領域は年会のみ、新領域なら登壇数制限から除外するとは書いてある、が、既存の領域にダメージがあると困る

誘電体分科 IM では「全領域を対象に領域横断とするのであれば従来領域の計算物理手法

の人が新領域の仕事に時間を取られてしまい従来の領域が体をなさなくなることが心配、学会の領域の設置は手法ではなく物理の内容に基づくべきでは、従来領域・分科に害が無ければ良い」等の意見があったと藤原委員から報告があった。これに対し是枝領域代表から「新領域を立ち上げるのは結構だが、こちらにデメリットがあればそれはご勘弁を、ということ」とコメントがあった。

2. 各賞の推薦依頼状況等

若手奨励賞については1件申請あり。

第26回論文賞は9/30までであり是枝領域代表に提出とのこと。

米沢賞は来月末までであり日本物理学会事務局、米沢賞担当宛に提出とのこと。

3. 学生優秀発表賞

申請方法がわかりにくいのか、規定を知らずに申込時のチェックを入れてしまう人がいる。本年会の場合、チェックを入れた申込者23人のうち半分は資格を満たしていない。また、その後、申請書を出すようになっており、これは二度手間である。申込時に、但し書き（各領域の規定を読むよう）を記載しておく等の必要がある。

倍率は二倍程度としていたが、上限は特にない。各分科のバランスを気にしてはいる。今回フォノンからは申込がなかった。こうした基準については、領域10にて集計段階で検討する。

4. 次の領域代表、副代表、世話人

次期副代表はフォノンから選出される。本IM時点では未内定。〆切は来春。竹下委員からは「昨年は、領域副代表については8月末くらいに寺内先生から連絡があった。サブ分科があり調整に時間がかかった」との回答があった。吉野先生がご存知かもしれないとのことコメントもあった。是枝領域代表からは「10月中くらいにフォノン分科で推薦をお願いしたい」とのコメントがあった。

次々期運営委員について、誘電体分科は深田氏、フォノンは島村氏、X線・粒子線は西村氏がそれぞれ選任されたと、各分科運営委員から報告があった。格子欠陥は未定。

6. その他

6.1. 超構造分野の担当について

本大会では山本氏にプログラム編集を協力いただいた。

次々回以降は超構造からプログラム編集担当を選出して欲しいとの意見があった。

また本来は超構造の臨時サブ分科の委員を選出し、プログラム編成時に運営委員の負担にならないようにするということがあった(2021秋期大会領域10IM参照)ので、次期以降臨時サブ分科の委員を選出してもらうべきという意見もあった。

6.2. 学生優秀発表賞申込手続きについて

募集要項(2)項が、申込時チェック欄が追加される以前から変更されていない。概要集への記載や申込時の200字用紙等はすでに不要では、との提起があった。領域10からは以下の意見があった。

- ・座長が申請書を紙でもらっても困るだけで必要ない
- ・申し込む人が資格についてわかりよいように運営委員アナウンスの仕方を変えた方がよい
- ・前回の要旨をPDF等で提出していただく等、応募要件を満たしているか、運営委員等がわかるようにすればよい
- ・現状では連絡委員が情報を持っているが、今回は23人中12人が資格を満たしていないもしくは(催促しても)申請書未提出のままだった
- ・学生は要項をなかなか読まれない
- ・新しい案を出して領域10で承認するようにする

6.4. 学会日程について

誘電体分科から、3連休での学会は宿泊費が赤字となってしまうので避けて欲しい、国立大法人化のため土日の方が部屋代の都合が良いのでは、という意見があり、領域10でも意見を集めた。

領域10からは、学会(応物、セラ協)と被らないようにという配慮もあるかもしれない、という意見があった。

6.5. 学会日程について2

陽電子分科から、総合講演の日程等情報を先に開示していただきそれからセッション日程を決められるようにして欲しい、との意見があった。今回総合講演と陽電子のセッションが被っており、こうした重複を避けたいとのこと。

これに対し、藤原委員から「日程はわかっていたが内容はわかっていなかった」との回答があった。

6.6. 英語スライドの推奨について

以下の意見があった。

- ・重要単語の脇に英語を付記する等あると良い
- ・推奨される場合、講演者がわかりやすいようにその旨書いてあるとありがたい

6.7. 学生優秀発表賞の資格者制限について

学生優秀発表賞に年齢制限検討の議題があがった。最終的には、考慮すべきこと(課程や学年、社会人かどうか等)があればコメントを入れるようにしてもらおう方向で議論が進んだ。

なお、本議題に対し、領域 10 では以下の意見があった。

- ・以前電子線分科で 20 年以上のベテランが応募し受賞した
- ・他の学会だと、社会人ドクターを除くなどの対策がある
- ・資格者制限については領域で決めていいはず
- ・欲しい人がアプライするのだから、高年齢での受賞はありではないか。若い学生がスキルの面で負けるのは仕方がないし、何歳にするかという基準を決めるのはむずかしい
- ・審査側でベテランと若年者を同じ基準で審査するかどうか、検討するのが良いか
- ・ベテランでも学生奨励賞をとるメリットがあるかどうかわからない
- ・社会人ドクターなどバックグラウンドが全く異なる人もいるので、同じ土俵で審査して欲しい
- ・年齢を基準にするのはハードル高いので、採点の時に事情を加味するのが良いか
- ・追加情報で博士課程や修士課程、社会人博士等書いてもらうようにすれば良い
- ・学年を記入するところがあるので、例えば候補リストに学年を書いてもらう
- ・受賞人数は決まっていない
- ・当落線がきわどいこともある